

治療の成否を握る診査・診断の真髓がいま明らかに！
歯冠修復治療のトップランナーによる待望の成書

包括的治療戦略

修復治療成功のために

Comprehensive Treatment Strategies
for restorative therapy

土屋 賢司 著

A4判／208頁／オールカラー

定価 16,800円

(本体16,000円+税5%)

ISBN978-4-263-46413-7

■これまでの書籍に満足できなかった方へ——

本書は術者が治療のイメージを高めるのに役立つ症例集ではありません。テクニックの上達を目指した技術解説書でもありません。修復治療を成功させるための優れた目と手、それと同等、いやそれ以上に必要とされるもの——治療計画を立てるにあたっての「考え方」を身につけるための、これまでにない成書の誕生です。

■「診査・診断」の重要性を理解されている方へ——

歯冠修復治療における診査・診断基準は、国内外の臨床家により提唱され、広く臨床に応用されています。しかし、その基準を知ることはいまだ修復治療成功のための必要条件に過ぎず、基準を逸脱していることがわかったときに、どのような治療戦略を描くかにこそ、臨床医の真の実力が問われるといっても過言ではありません。本書では著者の臨床の積み重ねから導き出された、「中切歯のインサイザルエッジポジション」を基準とした包括的治療戦略が、初めて明らかにされます。これを学ぶことで、千差万別の主訴に柔軟に対応するための基本が理解できます。

■これから修復治療を学ぶ方へ——

「患者さんが心の底から求めているのは、治療のlongevityである」。この信念のもと、長期経過症例にこだわり続けてきた著者が、満を持して供覧する症例群。予知性・永続性の高い修復治療をより多くの患者さんに——これから修復治療を学ぶ方に向けて、著者が届けたいメッセージが、すべてのページに込められています。

医歯薬出版株式会社

インプラント、矯正治療との連携などさまざまな治療オプションを自在に駆使した文字通りの「包括的治療戦略」を誌面に展開

■ 複雑な症例へのアプローチ

トーマスポジションの乱れ、丸唇、顎筋の弛緩など、さまざまな原因が複合している複雑な症例においては、前歯部から治療を行うのではなく、補綴、矯正、歯肉、歯肉外科、顎咬合矯正、口腔外科、歯科矯正など各分野の専門家がチームを組んで、包括的治療戦略を立案したうえで治療を行う、いわゆる「インターディシプリナリーアプローチ」による治療が有効である。

このインターディシプリナリーアプローチとは、「各専門分野が分業して行う治療」を指すが、各分野のプロフェッショナルがそれぞれに責任を負い、コミュニケーションすることで、より速く効果的な治療を実現することを目的としている。

ここで重要なことは、「最終的な治療目標」を各医が共有することである。各分野の専門家は、それぞれ得意とする治療はあるが、患者が求めている方向性については、共通の目標がない。このチームの方向性をまとめる、ゴールの高遠達成を促すプロフェッサーが、われわれ補綴医の役割である。最終的な治療のゴールは、最終補綴物の完成およびメンテナンスである。それゆえに、最終のゴールを知ることが補綴医が各専門医と意見を交わしなが、ディシプリナリーアプローチによる包括的治療戦略の立案が求められる。

■ インターディシプリナリーアプローチの流れ (図 1, 2)

一般的にインターディシプリナリーアプローチの流れは、主に3つのステップに分けて進められる。まず、患者の病歴に対してカウンセリングを行った後、診断・診断、治療計画の立案を行う。その際、各専門医の意見を聴き、治療計画の立案を行う。その後、各専門医の意見を聴き、治療計画の立案を行う。このプロセスを経て、治療計画が立案される。チームで協働して治療を行う。この段階でのリスクファクターを事前に把握し、チームで協働して治療を行う。この段階でのリスクファクターを事前に把握し、チームで協働して治療を行う。この段階でのリスクファクターを事前に把握し、チームで協働して治療を行う。

■ 複雑な症例における包括的治療戦略

1. 診断・診断
補綴医、審美歯科および矯正科の両方に来院された患者である(図3-1)。トーマスポジションの乱れ、上下顎前歯部のアキシャルインジケーション、咬合高度の低さ、咬合平面の傾斜、左右の咬合の不一致、歯肉の腫れなどの問題がある。患者に多くの問題が同時に存在している。このような症例では、「どこから手をついたらよいのか」という疑問は、しばしば患者から聞かれる。そこで、この患者に対しては、包括的治療戦略を立案することが必要である。



歯科衛生士・歯科技工士との
チームワークはもちろんのこと、矯正医などとの
効果的な連携を実践する著者の臨床から、
有機的なインターディシプリナリーアプローチを
学ぶことができます。



CONTENTS

Prologue

Opening Graph 1本のクラウンから学ぶ包括的治療戦略の重要性

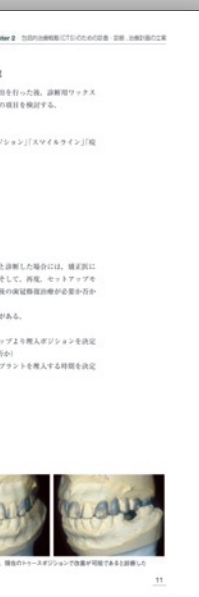
- Chapter 1 包括的治療戦略(CTS)の必要性
 - Section 1. なぜ、包括的治療戦略が必要なのか
 - Section 2. 包括的治療戦略(CTS)は補綴処置を単純化させる

- Chapter 2 包括的治療戦略(CTS)のための診査・診断、治療計画の立案
 - Section 1. 診査・診断のポイント
 - Section 2. 中切歯のインサイザルエッジポジションがすべての基準である
 - Section 3. 包括的治療計画の立案とその実際

- Chapter 3 包括的治療戦略(CTS)の方向性
 - Section 1. 審美修復治療における治療戦略
 - Section 2. インプラント治療における治療戦略
 - Section 3. 複雑な治療における包括的治療戦略 (インターディシプリナリーアプローチ)

Chapter 4 Case Gallery

Epilogue 7Cコンセプト



From Author

私は、歯科治療において、診査・診断、治療計画の立案といった“診断力”とそれを実行に移す“技術力”の両輪がバランスよく機能することが重要であると考えている。

“技術力”に関しては、多くの経験を積むことによって、一定のラーニングカーブを辿ることは可能だが、こと“診断力”に関しては、成書も少なく、単に経験を積むだけでは向上は望めない。

患者の個性差、そして要望は十人十色であり、100人の患者がいれば、100通りの治療計画があるといっても過言ではない、まさにオーダーメイド治療である。そのため、歯科医師は、局所的な問題解決能力だけでなく、大局的に患者を診て、戦略を立てる能力＝「包括的治療戦略 CTS (Comprehensive Treatment Strategies)」が求められている。

本書では、このCTSを軸として、実際の診査・診断、治療計画の立案に必要なステップ、そしてその対処法について詳細に記した。ぜひ、診断能力、そして問題解決能力を向上させる一助として本書を活用していただければ幸いである。



土屋賢司 Tsuchiya Kenji

1958年、神奈川県生まれ。1984年、日本大学歯学部卒業。1987年、USC卒業後研修。1989年、東京都千代田区にて土屋歯科クリニック開業。2003年、同区内に土屋歯科クリニック & works を移転・開設し、現在に至る。審美修復治療に限らず、インターディシプリナリーアプローチなど、総合的に質の高い歯科医療を追求し続けている。学会での演者、セミナー講師などを多数務め、後進の育成にも積極的に取り組む。論文執筆も精力的に手がけており、本書が初めての単著となる。共著に「コンベンショナルレストレーション」、「ボンディッドレストレーション」(いずれも医歯薬出版)など。

所属団体・学会：日本顎咬合学会(指導医)、日本口腔インプラント学会、日本歯科審美学会、日本補綴歯科学会、日本歯周病学会、Nobel Biocare Replace Select (インプラント公認インストラクター)、OJ常任理事、東京SJCD顧問、SJCDインターナショナル常任理事

医歯薬出版 ご注文承り書

包括的治療戦略 修復治療成功のために ()冊 ()冊 ()冊
()冊 ()冊 ()冊 ()冊
()冊 ()冊 ()冊 ()冊

指定納入店 [] 直送希望 (一回の発送につき手数料400円が別途かかります。)

●お名前

●ご住所 (〒 -)

●TEL

★必要事項をご記入の上、FAX. 03-5395-7633 にご送信ください。★弊社ホームページ <http://www.ishiyaku.co.jp/> からもお申し込みいただけます。
医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7630

2009年11月パンフレット作成